

人々の生活・生業に関わる温泉資源の利用と景観形成の関係性
— 鉄輪温泉地区の重要文化的景観指定に関する研究 (その6) —

正会員 ○牛 苗*

同 姫野由香* 同 松本 彩花** 同 佐藤誠治***

文化的景観 生活 温泉
景観構成要素 生業 行為

1 研究の背景目的

2012年9月、大分県別府市の鉄輪・明礬温泉地区(以下、鉄輪・明礬とする。)における世界的にも希有な湯けむり景観は「重要文化的景観」として選定された。この地区を対象とした既往研究^{1) 2)}より、この地区に関わる人々は湯治宿の経営、湯の花の製造販売といった生業や生活のために温泉資源を利用し、現在の「湯けむり景観」が成立していることが明らかとなっている。一方、「湯けむり景観」を創造する源である源泉に関する各種情報と景観構成要素の関係性は明らかになっていない。そこで、本研究では、文化的景観を構成し、人々の生活・生業において欠かすことのできない温泉の「湧出地、供給先、利用目的」と景観構成要素の関係を把握することにより、人の営みにまつわる如何なる景観が、同地区に存在するのかを明らかにすることを目的としている。

2 研究方法

本研究では、鉄輪・明礬の温泉利用と景観形成の関係を明らかにするため、地下にある特性と地上に現れている特性の二つのアプローチから研究を進める。地下にある特性では、源泉位置図^{注1)}と温泉台帳^{注1)}を収集し、「湧出地、供給先、利用用途・目的」の傾向を整理することにより、「温泉利用と景観形成の関係性」を把握する。地上に現れている特性では、温泉利用と人々の生活・生業に関係がある写真を分析することにより、「景観構成要素と景観形成の関係性」を明らかにする。本稿では、湯治宿の経営が現在も盛んな鉄輪について論述する。

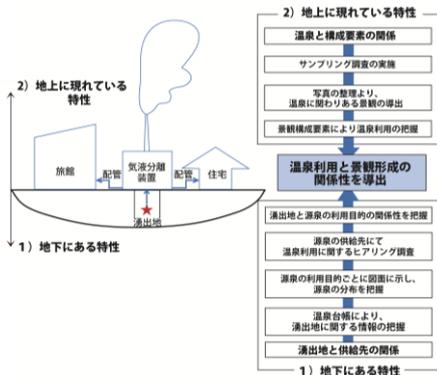


図1 研究フロー

3 源泉と景観構成要素の関係

3-1 源泉の利用状況

重要文化的景観の保全対象地区(2012年9月現在)の源泉の利用状況を把握するため、温泉法に定められている掘削最大規制距離^{注2)}を参照し、保全対象範囲から150mのバッファを発生させ、それを調査範囲とする(図2)。調査範囲の源泉位置図、温泉台帳より、利用源泉の「数、湧出地、供給先、利用用途」を把握し、整理した(表1)。鉄輪には現在利用されている源泉は52ヶ所ある。温泉台帳を参考に、利用目的を「自家浴用」、「公共浴用」、「蒸し物用」、「飲用」、「温熱栽培用」、「暖房用」、「湯の花用」、「観覧用」の8つに分類した。そのうち、最多は「公共浴用」69.2%(36/52ヶ所)で、次いで「自家浴用」が21.2%(11/52ヶ所)である。

表1 利用源泉の利用目的別の源泉数・割合

利用目的	自家浴用	公共浴用	蒸し物用	飲用	温熱栽培用	暖房用	湯の花用	観覧用	総数
源泉数(ヶ所)	11	36	1	1	3	2	0	7	52
割合(%)	21.2	69.2	1.9	1.9	5.8	3.8	0	13.5	

3-2 源泉の分布特徴

「源泉の分布」及び「源泉と景観構成要素の位置関係」を明らかにするため、調査範囲の利用源泉を利用目的ごとに地図上に示した(図1)。鉄輪では、「公共浴用」に利用されている源泉が九州横断道路の北側や地区の中心に分布している。源泉と景観構成要素が同様の敷地内に存在する組み合わせには、「源泉、旅館」、「源泉、旅館、共

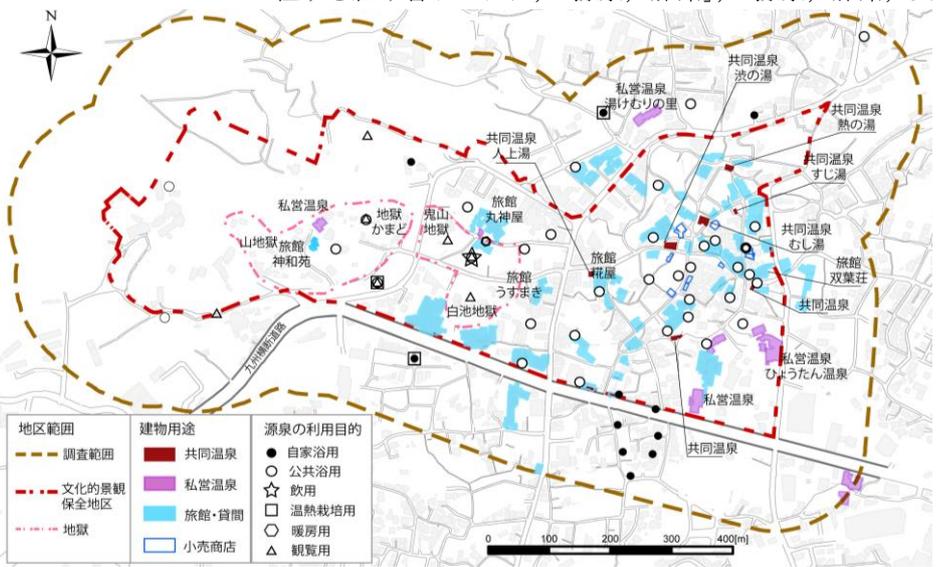


図2 鉄輪温泉地区・源泉位置図

同温泉」,「源泉,旅館,私営温泉」,「源泉,小売商店」等がみられる。このことから,特に旅館は源泉の近くに存在していることがわかった。さらに,前項では「公共浴用」の利用源泉の割合が69.2%という結果が得られた。つまり,図2のような源泉の分布と特徴から,地区住民は源泉を利用して生業である旅館業を営み,生活するために,「公共浴用」の目的で源泉が利用されていることがわかる。

4 現存風景に見る温泉利用の傾向

調査範囲における温泉利用による景観構成の特徴を明らかにするため,既往研究¹⁾において,温泉地の特徴的な景観として抽出された温泉利用に関する鉄輪の95枚の写真に写り込んだ景観構成要素及びその周辺に起き得る行為を整理した(表2)。まず,地区住民の生活・生業に関する景観構成要素を既往研究²⁾に基づき抽出し,「自然現象」,「設備」,「宿泊施設」,「店舗」,「公共空間」,「湯治習俗」,「その他」の8つに分類した。次に,それらの景観構成要素の周辺で起き得る行為のうち,「実際に起きる人の第一の目的行為」を「一次的行為」,「一次的行為以外で景観構成要素に関連して連想される行為」を「二次的行為」と定義した。また,それぞれの行為を地元住民と外来者に分けて整理し,行為(温泉利用)と景観構成の関係性をバブルグラフにより示した(図3)。

住民に関するバブルグラフより,最も起き得る一次的行為は「経営」369件(18%),二次的行為は「雑談」370件(36%)であることがわかった。また,「旅館(貸間)」に対する「経営」は137件(37%)である。このことから,「旅館(貸間)」は住民の生業を象徴する要素といえる。外来者のバブルグラフより,最も起き得る一次的行為は「入浴」315件(18%),「宿泊」300件(18%),二次的行為は「湯治」271件(34%)である。さらに,それらの行為の46%(411/886件)は景観構成要素の「旅館(貸間)」と関係して起きていることから,外来者の「旅館(貸間)」における「宿泊」,「入浴」の行為の背景には「湯治」の行為があるといえる。また,バブルグラフ全

体から,すべての行為は「湯けむり」に関係があり,起こり得る全行為の73%(4114/5646件)を占めていることがわかった。よって,「湯けむり」は不動産ではないが鉄輪の重要文化的景観の構成において重要な要素であるといえる。

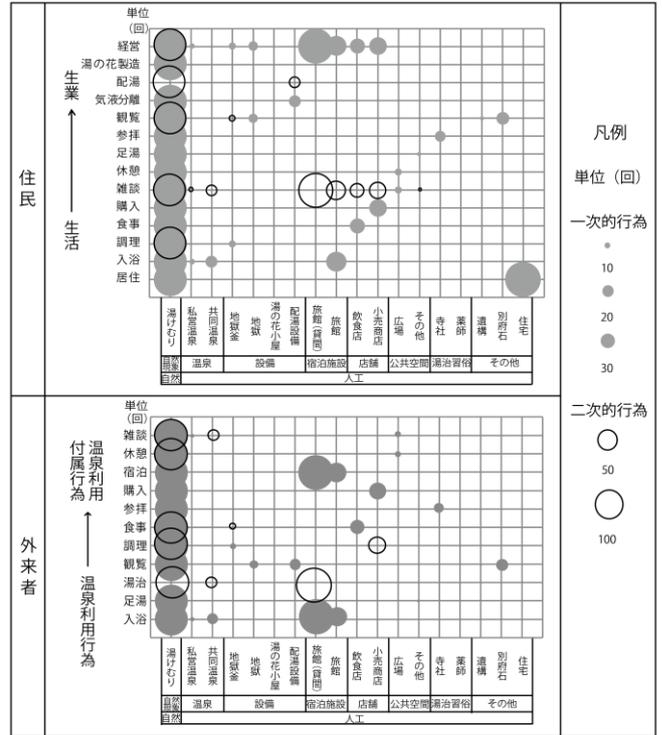


図3 景観構成要素に関する行為

5 総括と今後の課題

本研究では,利用源泉の温泉台帳より,源泉の分布の特徴を源泉位置図で示した。「浴用」に利用されている源泉は地区の中心部,他の利用目的で利用されている源泉は地区のフリンジに分布していることと源泉と構成要素の組み合わせの特徴を明らかにした。また,行為(温泉利用)と景観構成の関係から「湯けむり」と「旅館(貸間)」は重要な要素であることがわかった。今後は,住民及び外来者に対する温泉利用に関するヒアリングやアンケート調査により,両地区の温泉利用の実態を明らかにし,存在する各要素の問題点とそれらの改善方針を検討する必要があると考える。

【補注】

注1) 源泉位置図,温泉台帳「大分県東部保健所提供資料」
注2) 温泉法(大分県環境審議会温泉部会内規)「一般的温泉湧出目的の土地掘削は既設泉から60m(噴気,沸騰泉から150m)以内の地点では認めない」

【参考文献】

- 1) 福井彩乃,佐藤誠治,姫野由香「古写真にみる景観変容と選考景観の構図的特性 別府市鉄輪・明礬温泉地区の重要な文化的景観指定に関する研究」日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1分冊,pp.981~982,2009.8
- 2) 森下泰敬,佐藤誠治,姫野由香「景観構成要素と生活・生業の関係性の導出—別府市鉄輪・明礬温泉地区の重要な文化的景観指定に関する研究—」日本建築学会九州支部研究報告第50号1,pp.309~316,2011.3

表2 景観構成要素に関する行為

景観構成要素	行為	住民				外来者		利用目的
		経営者		一般の人		一次	二次	
		一次	二次	一次	二次			
自然	自然現象	湯けむり	経営	経営	入浴,調理	入浴,調理	湯治	公共浴用
		経営	経営	足湯,観覧	足湯,観覧	観覧	観覧	自家浴用
温泉	私営温泉	経営	経営	入浴	入浴	入浴	入浴	公共浴用
		共同温泉	—	—	入浴	入浴	入浴	公共浴用
設備	地獄釜	経営	調理	調理	観覧	調理	食事	蒸し物用
		地獄	経営	観覧	観覧	—	—	—
宿泊施設	旅館(貸間)	経営	—	—	—	—	—	—
		旅館	経営	—	入浴	入浴	入浴	入浴
店舗	飲食店	経営	—	—	—	—	—	—
		小売商店	経営	—	—	—	—	—
公共空間	広場	—	—	—	—	—	—	—
		その他	—	—	—	—	—	—
湯治習俗	神社	—	—	—	—	—	—	—
		薬師	—	—	—	—	—	—
その他	遺構	—	—	—	—	—	—	—
		別府石垣	—	—	—	—	—	—
		住宅	—	—	—	—	—	自家浴用

*大分大学工学部福祉環境工学科・助教授 博士(工学)

**大分大学大学院工学研究科博士前期課程

***大分大学工学部福祉環境工学科・教授 工学博士

* Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita University, Dr. Eng

** Graduate Student, Oita University

***Prof.,Dept.of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr. Eng